

アマダイ通信NO. 109

(Tile fish network letter)

2015年 紅葉する

知人・友人各位

富士山も綺麗に冠雪、本州も紅葉し、北の国から雪の便りが聞こえると、今年の初スキーはいつにするか？心が騒ぐ。群れるのが好きな🐟、一緒に滑る仲間がいて嬉しい。ホームコースは奥利根の宝台樹スキー場。🐟の8人乗り四駆に相乗り、スキー場脇の蕎麦屋で地料理と地酒を軽く楽しみ、半日券で15、6本滑り、アルコールを蒸散、時に掛け流しの町営温泉を楽しむ。4、5人で行くが、交通費も含め諸々込みで7、8千円、ゴルフよりずっと安上がりで、運動量もはるかに多く、ダイナミックで楽しい。仲間が多ければ更に楽しく、コストパフォーマンスも上がる。昔に返って、一緒にスキーを楽しみませんか？しばらく遠ざかっているけど自転車と同じ、体が覚えています。

◎アジアを徘徊するグローバル資本主義の「鬼っ子」

かつてアメリカ経済が風邪を引くと、日本経済は肺炎になると言われたが、最近では中国が風邪を引いたので日本が肺炎になると言われている。本来は計画経済を旨とする「社会主義」国家中国で、中央集権的に、計画的に経済が運営される筈が、「国营企業」とは名ばかりで、省や市などの自治体が資金を投入、外資を呼び込み競ってつくった「地方公営企業」。上げた収益は幹部に集中。トータルすれば団体だけは大きくなった中国経済だが、無秩序に、必要以上に大きくなり過ぎた。かつて大流行、やがて非効率経営で赤字を垂れ流し、大枚の税金を投入して大整理された日本の「三セク」会社と同じ。日本でもまだ整理出来ない「企業庁」や「公社」が残るが、中国ではこれからだ。供給が需要をオーバーしても、それぞれの地域経済の趨勢と既得権に関わり、おいそれと整理出来ない。

他方で、発展した経済力にものを言わせて軍事力も伸長させ、中国の脅威が声高に叫ばれる。毛沢東の「人民戦争論」に基き、人民の海の中に侵略者を引き摺りこみ、人民戦争で殲滅するという戦略で、海軍や空軍に重きを置かなかった中国が、機械化・近代化を目指し、海空軍力を強め、覇権を主張、とりわけ南シナ海で近隣諸国の沿岸までの領有を主張、環礁を埋め立て要塞化、アメリカの覇権に挑戦し始めた。アメリカも遅きに失した感はあるが、漸く軍艦を派遣、対抗措置を取り始めた。

米中軍事「対決」の落とし所はどこなのか？第三次世界大戦の可能性はないのか？中国経済の不調が世界恐慌の引き金にならないか？今や巨大に成長し、爪を磨き、牙を剥いて、所構わず大声で吠えたてるドラゴン、八岐大蛇（ヤマタノオロチ）も、元はと言えば、日米欧の資本が餌を与え、育てた怪物だ。かつて「ヨーロッパを徘徊する妖怪」（マルクス「共産党宣言」）と言われた共産主義は、マルクスが予言した様に資本主義経済の発達した英・仏・独の先進国では起こらず、遅れた辺境のロシアで、しかも世界革命として波及することはなく、一国社会主義として誕生、苦難の道を歩み、更に遅れた中国が社会主義化する。共同所有と計画経済、共産党独裁を核とする一国社会主義だが、その路線を巡って中露は対立、中国はソ連と袂を分かって文化大革命を始めるが、更に疲弊、西側に教えを請い、

門戸を開放すると、安い労働力と巨大市場を求め、ニューフロンティアに世界の資本が殺到、世界の工場として急速な発展を遂げる。中国が「社会主義市場経済」を標榜、ベルリンの壁の崩壊によってソ連圏が崩壊することで、「一国社会主義」の可能性は完全に潰える。地上から共産主義という妖怪は消え、資本主義が勝利、「イデオロギーの終焉」が到来するが、東方に一匹の巨大怪獣が誕生する。

社会主義を捨て、グローバル資本から乳を貰って巨大に成長したドラゴン、八岐大蛇は愛国主義にアイデンティティを求め、チベットや新疆などの独立運動を徹底的に弾圧、極大化した格差の是正と人権を求める運動も抑圧、海洋に覇権を求め、過剰生産の吐き口として陸海の二つのシルクロードを提唱、アジアインフラ投資銀行を設けてその資金を供給、内なるフロンティアより、外にニューフロンティアを求めるかの如く。八つの頭が互いに噛みつき、のたうち回る大蛇には、振り回される尻尾になぎ倒され、踏みつけられる辺境の民の苦しみは見えず、人民の怨嗟の声は届かない。所得再分配の仕組みを作り格差を是正、国民の購買力を高め、地方の貧弱なインフラや住環境、上下水道、医療を整備、環境破壊を抑止・改善し、余剰生産力を解消、国民生活の向上と産業構造の転換を図ることが必要ではないか？そのためにも情報の自由な流通、言論の自由が必要だ。

◎私（個人）とは命の渡し

いつもは客先 10 時のアポに合わせ、9 時頃娘のマンションに行き、孫娘と「同伴出勤」するのだが、午前中高崎出張で、1 時間ほど早く 8 時半に保育園に登園。朝たっぷり友達と遊べて随分楽しかったらしい。翌朝娘から、「早めに保育園に行きたいから、おじいちゃん早く来て欲しいと姫が言ってます。」とメール。テレビや iPad に子守りをさせるよりは仲間と楽しく遊んだ方がいい。姫のたつての要望とあれば、コーヒーを飲みながら、朝日と日経の 2 紙をゆっくり読む朝の至福の時間を、もう一つの至福の時間に変えるのは吝かではない。読みかけの日経をカバンに入れ、いそいそと娘のマンションへ。

娘のマンションの玄関で、土曜日の運動会の親子競争をお爺ちゃんと一緒に走りたいと姫。来年小学校に入る孫娘をおんぶして走って、足腰は大丈夫か？約束の時間より 30 分以上早く着いた京橋のゼネコンの、ゆったりした受付前のソファで日経を広げながら思索。来年 3 月の孫娘の卒園と入れ替わりに今年 2 月生まれの男の子が入園、娘は職場復帰、育爺は乳母車を押して同伴出勤の予定が、0 歳児も 11 月から入園、11 月末から娘は職場復帰することに。湾岸には超高層マンションがどんどん建ち上がり、それぞれに保育所がつくられるので、待機児童が少なくなったのか？予定より早く、乳母車押し、年長さんの手を引いて、育爺はダブル同伴出勤することに。

銀座にチャリンコで一漕ぎの湾岸のマンションに住んでも、綺麗に髪を高くした、高嶺の花の銀座のママと、夕方お店に同伴出勤するのは高望み、叶わぬ夢?!の~~◆~~だが、毎朝孫達と「同伴出勤」する、至福の時間を手にいれる。毎月の返済が年金受給額の数倍の、80 歳までの大枚の住宅ローンを、63 歳で組む。元気に働き続けて住宅ローンを完済するか、一思いに死んでチャラになるかしない限り下流老人に転落する、大きなリスクと引換えに得た至福の時間。孫達と過ごす時間を楽しみながら、働いてキャリアを積みたいという娘の希望を支え、子育てにも貢献、肉体を失っても子供達の記憶の中で生命を全うしたいと望む。ある生物学者が、私（個人）とは命の渡し、と言っていると友人。けだし名言！

◎「がんと闘うな」！？

寮の1年先輩から「実は、奥さんが乳がんで今年7月に虎ノ門病院でステージIで摘出手術をしました。幸い抗がん剤は飲んでおらず、術後、5週間は放射線治療を毎日行い、その後、毎朝、女性ホルモンを抑制する薬を飲んでおります。しかし、体調はすぐれず、ゴルフもかつてのように上手くいきません。再発も心配しています。そこで干場さんの人脈の広いところで、たとえばがん研究所など相談できる先生を紹介していただけると幸いです。」とメール。確かに奥さんががんで手術、体調優れず、好きなゴルフも儘ならないということであれば、よく一緒に夫婦でゴルフをされる旦那さんとしては心配だ。だがステージIで、リンパ腺など他の臓器に転移がない、抗がん剤を飲む程でもないということであれば、先ず心配することはない。体調が優れないというのはむしろ放射線治療やホルモン剤治療の副作用なのではないか？或いは気持の問題なのではないか？

確かに日本国民の半分はがんに罹り、3分の1はがんで死ぬ。しかし、がんに罹っても日本国民の6分の1はがんで死なない。早期に発見、手術でがんを摘出、転移もないステージIaであれば、何も心配することはない。●の様に発見が遅れ、しかも手術で切除したリンパ腺9か所の内3か所に転移しているステージIIIb（ほとんど治癒する見込みなし）の大腸がんで完治、術後13年も生き、術前と変わらず仕事、夜毎お酒を嗜み、68歳というのに冬場は毎週末仲間と日帰りスキー、雪のない季節はカートに乗らず歩くゴルフを隔週毎に楽しみ、スキーもゴルフもない休日は無料の区営プールで千mずつ泳ぐ。

肝臓がんで発見が遅れ、肝臓移植しか打つ手はないが、渡米して移植手術を受ける2500万円を奥さんが出してくれないと、電話の向こうで暗い声で訴えた後輩には返す言葉もなかった。先ずは早期発見。検診などで早期に発見、患部を切除、転移もなければ何も心配することはない。●の様に万が一発見が遅れても、転移した部分も含めてきれいに切除、抗がん剤治療も奏功、本人の免疫力が高ければ、余命半年のがんでも生き永らえる。そのためにはむやみに「がんと闘わない」ことだ。

初期のがんでも、これは大変だ！ということで、あの治療がいいか？この先生はどうか？と、がんのことしか考えられなくなると、毎日の生活も楽しめず、免疫力が下がる。人はいずれ死ぬ。がんと宣告されても、幸いにも即、命を失う訳ではない。余命というものがある。あと1年しか生きられない！と思うか？1年生きられる！と思うか？友人に色々勧められたサプリメントも一切やらず、一度は週末を休肝日にと試みながら、術前と同じように毎晩お酒を嗜み、余命半年の●は13年も、相変わらず生きている。いつもの様にOBと駄洒落を連発、先輩夫妻とゴルフを楽しみたいものだ。

◎セルベリア・グランビア

10月の土曜日に能代高校の東京同窓会で講演してくれた、後輩の金子君が赤坂で経営するスペイン料理の店、セルベセリア・グランビア（赤坂6-4-15、03-6277-8621）に足を運び、顧問先と会食。普段は和食が主で、あとは精々中華の●だが、後輩の店とあれば別だ。国際モーターズからメトロの赤坂駅を出て、TBSの通りを登った交差点の角の辺りに、如何にもスペインという感じの居酒屋がある。場所柄、有名人の来店も多い店の天井には、豚の後肢が所狭しとぶら下げられ、壮観。これが人間の足なら、猟奇殺人事件と大騒ぎだが、豚なら許す人間の身勝手。弱肉強食の自然界の厳しい掟。イルカの追い込み漁はいけ

ない、鯨食は罷りならぬという御仁も、豚の皮剥ぎに塩を擦り込んで、カビさせるなんてとんでもない！と声を上げることはしない！現世では食物連鎖の頂点に立つホモサピエンスに生まれた幸せを噛みしめる。来世だって豚には生まれたくない！

慣れない料理はコースで頼むに限る。3千円代からあり安心だ。選択はスポンサーの顧問先に任せる。前菜には三元豚の生ハム超薄切り、猟奇殺豚事件の賜物+サラダ。同窓会のお土産に頂いた生ハムと違って塩味が薄い、これなら降圧剤を飲んでいても大丈夫だ。真空パックにすると塩が染み出してきて、しょっぱく感じるんですと金子君。豚のモモ肉に塩を大量に擦りこみ、殺菌、水分を抜き、自然乾燥させ、薫製にしたものだ。これがあったから、大航海時代の長い航海を可能にし、スペインの南米征服も出来たのだと金子シェフ。スペインの猟奇殺豚事件が銃と梅毒による南米インディオの大虐殺につながり、南米原産のジャガイモがヨーロッパの民を飢餓から救い、トマトはヨーロッパの料理を根底から変え、トウモロコシは豚の餌となってヨーロッパの食卓を豊かにする。

フラメンコダンスの勉強に行ったスペインで、生ハムと出会い感動した金子君、秋田の田沢湖畔に工房を作る。清涼な気候を利用、ミネラル豊富な海水塩以外には着色料・保存料などを使用せず、肉質の良い秋田県産の三元豚を、一年以上熟成させ、本場に負けない「ハモン・セラーノ」製法の長期熟成生ハムに、手作りで丁寧につくり上げる。金子君、故郷能代に大きな農場を作り、能代特産の生ハムをつくりたいという。🍷も応援したい！

◎黒革の手帳とアカモクきしめん

最近の新幹線はよく混む。特に東海道はすごい。先日も浜松町で指定券を買おうとするが、直近の品川駅 8時 57分発は自由席のみ。次の 9時 7分発の 3列シートの中、B席をどうにかゲット。少しは空いてるだろうと、席をゲット出来なかった一つ前の列車の自由席へ。座れないということはないだろうと、高をくくっていたら、座れず。新横浜駅まで、立って読書。二宮金次郎。新横浜で降りるビジネスマンが結構いるので、ようやく二人席の通路側、D席に座る。インバウンドの大きなスーツケースを抱え、中国語を操る外人さんを含め、名古屋まで立ったままの客が、結構いる。

JR 東海不動産の分譲マンション建設の件で、名古屋の超高層駅ビルにある、JR 東海関連会社の名工建設本社で専務取締役役に挨拶、顧問先に駅ビルの高島屋のレストラン街の山本屋の名古屋名物味噌煮込みうどんをご馳走になる。ここも長蛇の列。帰日も昼間だというのに 3列シートの中、B席をようやくゲット、再度新幹線に。

ホームのキヨスクでアカモク（ギバサ）入りきしめんを見つけ、思わず買う。ギバサはホンダワラ、地方によってはアカモクとも言う。子供の頃、春先に磯浜で若芽を刈り取った。湯通しして、三杯酢で酢の物や、味噌和えで食べると粘りがあって美味しい。粘りが強いので、ワカメのメカブと同じように味噌味のだし汁で、とろろご飯にしても食べられる。カルシウム、植物繊維、ポリフェノールなどが豊富で粘り気、シャキシャキ感があり、癖がなく他の食品と合わせやすいということで、きしめんにも使われる。

愛用の黒革の手帳を持たずに家を出たのに気付く、品川で降り、東海道線に乗換え、新橋から汐留まで歩き、大江戸線で勝どきへ。タクシーをマンションの駐車場に待たせ、黒革の手帳を取って引き返す。リニア新幹線工事の件で、品川駅の東京本社で、リニア担当の JR 東海常務に挨拶。新幹線でタチン坊はしたくない。リニア新幹線の完成が待たれる。

🐼 アマダイのミャンマー紀行Ⅳ（2014年8月15日～、クラブツーリズム

「全日空直行便で行く！気軽にミャンマー黄金の仏教国4日間」

⑦瑞穂の国の選択

パガンのホテルは新しいリゾートホテル。部屋もゆったり、設備も新しく、周りとは別世界。金色のパゴダも安置、敷地も広く、中庭には小振りだが、プールもある。まさかミャンマーでこんな素敵なリゾートホテルに泊まるとは思わず、海水パンツを持参しなかったことを後悔する。しかし、我は海の子、白神の！こんな素敵なプールなら、素っ裸でも泳いでみたい！幸い穿いているのは赤いトランクス。平原に沈む夕陽を見に行くまで時間もある。泳いじゃえ！水に飛び込む。ハイビスカスとブーゲンビリアの花で囲まれた、緑の芝の中庭のプールで泳ぐのは気持ちがいい。人形劇を鑑賞したレストランからの帰途、漆黒の闇に浮かぶ星空も綺麗だ。もっとも旅の上空から見下ろしたら、真っ暗で何も見えず、つまらないのだが。こんな所でせめて2、3日、マウンテンバイクでパゴダや露天、市場を巡り、プールサイドでカクテルを飲みながら、ゆっくり本を読めればと思う。こんな辺境でも、いや辺境だからこそ、バカンスを楽しむ、シワとシミの多い、白い肌の人達。明日は早朝の便でヤンゴンに引き返す。レストランで二本飲んだミャンマービールで酔いで、速攻で眠る。少し早めに開けて貰った二階のレストランのテラスで、葉っぱの泳ぐプールを眺めながら朝食。コーヒーはインスタントで美味しくないが、若い従業員に、レアと言いながら身振り、手振り作って貰った目玉焼きとお粥が美味しい。

ヤンゴンに直帰するのかと思ったのだが、ミャンマーの中部に位置する古都、イギリスの植民地になるまで王朝のあったマンダレーまで北上、着陸。更に風光明媚なインレー湖畔のヘーホーまで南下し、着陸、ヤンゴンに帰るといふ。機内から見下ろすと平地は耕され、綺麗に区画、水路も整っている。緑の濃い区画は稲が生育中なのだろう。これらの田んぼもパガンで見たように牛馬と人力で耕されているとすれば、機械化で生産性を上げ、就学率90%を越す質のいい余剰労働力を、工業生産に回すことは可能だろう。化学肥料も余り使われていないだろうから、稲の収量を上げることも可能だろう。それは日本の農村が歩んで来た道でもあるが、村の消滅、コミュニティの消失が叫ばれている日本を50年、60年遅れて追いかけることが、南の瑞穂の国の民の幸福に繋がるのだろうか？まさに安い労働力と結果として豊かになって行くであろう市場、新たなる辺境を目指して殺到するグローバルキャピタリズムと、どう対峙するのか？今正にその選択が問われている！

⑧あの世とこの世

ヤンゴンの空港から都心にバスは走る。中々進まない。1年ほど前から急に渋滞が酷くなったという。それまでは輸入自動車に100%かかっていた関税が15%に下がり、新車の輸入が増え渋滞が酷くなったという。公共交通といえばバスだが、皆おんぼろで、すし詰め。クーラー付きの運賃の高いバスも走っているようだが、見掛けない。他にマイクロバスやトラックの荷台の両脇に座席を設け、幌を掛けたバスも走っているが、東南アジアの都市で良く見掛ける輪タクやバイクタクシーはない。都市内や都市間の鉄道や道路等の交通インフラの整備が待たれる。建物もイギリス植民地時代からの古いものが多いが、今では中国でも見掛けないバンブー足場を使って、レンガ作りの新しい建物が作られている。

鉄筋が入っているのだろうか？パゴダの作りも同じだ。レンガを積み上げた上に白い漆喰を塗り、絵を描いて壁画、フレスコ画とし、金箔を貼って金色のドームを作る。パガンでは地震で漆喰が落ちて、アーチ造りの曲線のレンガ積みが見えるものも幾つか見た。鉄筋コンクリートの高い建物も壁はレンガで作られ、モルタルが上塗りされ、更にペンキやタイルで化粧される。ヤンゴンではアパートの上階と下階でどちらの値段が高いでしょう？とガイドのチョウさん。日本では通常上階が高いが、ミャンマーではマンションでも6、7階建てまではエレベーターがないので、下階が高いとのこと。一階は道路に面していれば商売も出来るので、一番高い。高層のレジデンスになるとエレベーターがつくので、眺望のいい上階が高くなるという。

幹線道路から緑の多い住宅街の道路を走り、ガラス工場のオーナーが1907年に建てた仏塔チャウッタージー・バヤーへ。全長70m、高さ17m、巨大な金色の寝仏が、鉄骨で支えられた大屋根の下で、優美に微笑む。お昼はヤンゴンに2つある人造貯水湖で、汚染が進み今は使われていない湖畔の、高級レストランで飲茶のお昼。炒飯と焼きそばは今一。茄子好きだが辛味に弱い●には、甘めの麻婆茄子が美味しい。ミャンマーで初めて飲む生ビールも美味しく、お代わりする。湖の公園の入口に立つ独立の父でもあり、親日家でもあったボージョー・アウン・サン将軍に敬意を表し、ミャンマー流に全員で反対車線から道路を横切って写真撮影。近くには広大な日本大使公邸や日本大使館があり、その脇のガラスカーテンウォールの高層オフィスビル、ビジネスセンターにはJFEやNECなど、馴染みの日本の企業名。大きな交差点のロータリーの真ん中に黄金の台座に載った巨大なルビーのオブジェが建つ。さすが金銀、ルビーや翡翠等を豊富に産するビルマらしい。

イギリス統治時代に作られた、一周45キロの環状鉄道のヤンゴン中央駅。緑の屋根に白い漆喰のイギリス式の建物だが、手入れがされず壁は黒ずみ、列車の本数も少ないのか、広い駅前広場は閑散としている。坂道を大きく迂回して登り。中央駅を見下ろす辺りに、日系企業などが多く入り、一番家賃が高いと言われるサクラタワーが建つ。鉄道の路線と平行するボージョウ・アウサン通りのこの辺りが、新しい高層のオフィスやホテル、デパートなどが林立する繁華街だ。ヤンゴンで最も大きく、賑やかなマーケット、ボージョーアウサン・マーケットも見学。入口正面中央に玄関のある建物はイギリス統治時代の1926年に建てられたが、他の市場と違って生鮮食品は扱わないので、面白みは半減する。集合時間まで時間を持て余す。隣の、地下の2フロアがスーパーマーケット、上階6フロアほどがデパート、更に上がオフィスという、新しい建物一階の小綺麗なカフェでコーヒーを飲み、本を読む。マーケットの向かいでは大きなクレーンや重機を使い、大規模な再開発ビルの建設も進む。

仏教国ミャンマーの象徴の仏舎利や法舎利を納めた仏塔を英語ではパゴダ、ビルマ語ではバヤーと言う。最大の見所はシュエダゴン・バヤー。初日泊まったユザナホテルから、夜の闇の中で金色に輝いて見えた仏塔だ。2千5百年ほど前の創建と言われるミャンマー最大の聖地。緑豊かな人民公園に隣り合う丘の上に巨大な黄金の仏塔が建ち並び、きらびやかだ。東西南北四ヶ所の入口からは壮麗な回廊が続き、両側には仏具や花、土産物売る店が立ち並び、賑やかだ。104段の階段分を、外国人専用エレベーターに乗り丘の上へ。メインの仏塔は百mほどの高さ、基底は周囲433mと巨大。最高部は数千ものダイヤモンドやルビーで飾られ、風鈴の様に先端に飾られた金色の薄い板が風に吹かれてぶつかり、

妙なる涼音を響かせる。膨大な量の金箔や宝石は、信者から寄進されたものというが、ミャンマーの人々の信仰心の篤さを知ると同時に、神と来世の華やかさ、ミャンマーの人々の現世の厳しさを深く胸に刻み、ヤンゴンの空港に向かう。(完)

◎「日本の鉞子、世界の鉞子～日米の架け橋となった鉞子とフローレンス」

・・・東大三鷹クラブ第123回定例懇談会のご案内

今年8月11日にNHKBS1で21:00～22:50「武士の娘 鉞子とフローレンス～奇跡のベストセラーを生んだ日米の絆～」として水野真紀らが出演したドラマ&ドキュメンタリーが放映された。この番組の基になった本が2013年に講談社から出版された『鉞子 世界を魅了した「武士の娘」の生涯』で、今年6月、講談社+α文庫から再版されている。

幕末から明治初期に生まれた女性のドラマがこの数年、NHK大河ドラマや朝の連続ドラマを中心に多数放映されている。現在の「あさが来た」(広岡浅子)「花子とアン」(村岡花子)「梅ちゃん先生」(下村→安岡梅子)「篤姫」(天璋院)「八重の桜」(新島八重)「花燃ゆ」(杉文)などである。杉本鉞子「武士の娘」も大河ドラマでとりあげるだけの内容と価値があると思う。杉本鉞子(エツ・イナガキ・スギモト)は、日本の伝統文化と日本人のモラルを描き、米国や欧州各国の人々に大きな影響を与えた女性である。

私は2013年の内田義雄氏(元NHKスペシャル番組エグゼクティブ・プロデューサー、S33年入寮)の本によって初めて知った。彼が指摘しているように、日本人がはじめから英文や欧米語で出版して影響を与えた本は、内村鑑三の「代表的日本人」、新渡戸稲造の「武士道」、岡倉天心の「茶の本」などがあるが、杉本鉞子の「武士の娘」は、刊行されたのが1925年(大正14年)と日露戦争と太平洋戦争の狭間の時期で最も新しい。また、最も多くの欧米人に読まれ続けている本でもある。明治から日露戦争までの日本人は、その戦争での戦いと捕虜の待遇や戦後処理もふくめ、欧米の中でも最もすばらしい「道徳」や「感性」「尊敬」などで共感と呼んだといえよう。

その日本が、太平洋戦争に至る「15年戦争」では、「アメリカ合衆国が全面戦争で戦った敵のなかで、日本人ほど異質の民族はいない。」とベネディクトをして「菊と刀」のなかで書かせたように、極悪非道の残虐な国民として報道されたりした。その結果として、未だにアメリカ人は原爆や焼夷弾による無差別殺人を、戦争を早く終わらせ、その結果として何百万人・何千万人の命を救った正当な行為と考える人が多数いるようである。

内田氏は、7年前の第81回に登場してもらったが、新潟県長岡市出身、県立三条高校卒、東大文学部西洋史学科卒業後、NHK入社、報道プロデューサーとして中東やベトナム戦争、米ソ両国を取材し数々の特集番組を制作してきた。内田氏の本は、日米間の文化や歴史や風土の違いを乗り越えて、相互理解と家族のような友情と交流ができる見本のひとつとして、一抹の希望を与えてくれる書物として、その背景を教えてくれる。今日、日本や世界各国が、第一次世界大戦に至る帝国主義時代のような、あるいは日本の戦国時代や中国の三国志の時代のような、「何でもあり」の時代に入ったかのような時期に、一つの希望を与えてくれる本が、「武士の娘」なのである。そのような勝手な私の解釈を超えた日米両国の取材をしてきた内田義雄氏が、プロジェクターも使って解き明かしてくれるだろう。女性を含めた多数の参加を願い、期待している。(文責秋山順一 昭和33年入寮)

日時：平成27年11月17日(火) 18時30分～21時

場所：学生会館本館 302 号室（千代田区神田錦町 3-28 Tel 03-3292-5931）

会費：5000 円（会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場（有）ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎交換留学生 OB を囲む会

皆さんよく御存知のメガネの JINS の中国法人で経営企画の仕事をしている、上海在住の、09 年、南京大学からの交換留学生の呉鴻さんが、この夏 2 か月間の研修で東京滞在。呉さんは 1 年間東大で学び、南京大学に戻って卒業後、上海のユニクロで一時働くが、退社、自身で上海で語学学校を立ち上げ、経営。その会社を清算、今回、あらためて日系企業に就職。日本、日本語と関わり、色々苦勞しながらも逞しく生きている呉さんを囲んで、交流する会を企画。来日中の、JTB オーストラリアで働くメルボルン大学からの交換留学生 OB 含め、大ベテランから若い OB、現役寮生まで、本郷の中華料理屋で一次会、事務所で遅くまで二次会、盛り上がる。国際的にネットワークが広がるのは嬉しい。

出席者は呉 鴻（2010・AIKOM・中国・南京大学）、重見 直宏（2010・文Ⅲ→西洋史・愛媛・愛光）、石田 翔太郎（2010・理Ⅰ→理・情報工学・広島・尾道北）、星川 昇平（2010・理Ⅱ→薬学部薬学科・秋田・秋田）、福永 晋朔（2015・文Ⅱ・福岡・小倉）、渡邊 淳一郎（2015・文Ⅱ・熊本・済々黌）、CHRISTOPHER PRYSE（2010・AIKOM・オーストラリア・メルボルン大学）、Vicky Zhao（2010・AIKOM・バンクーバー）、柳沼和也（2011・理科Ⅰ，工学部大学院修士課程在学中）、岸名 遼平（2015・理Ⅰ・北海道・岩見沢東）、田辺 正彦（1950・工学部応用化学科・旧制三高）、平賀 俊行（1951・文Ⅰ・北海道・稚内）、大矢 昇治（1965・文Ⅲ 教育学部教育学科・神奈川・湘南）、辰 紘（1965・文Ⅰ 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘）

◎昇吉の会

春風亭昇太の弟子の二枚目昇吉（本名 國枝明宏、03 年入寮）さんから、国立劇場演芸館での公演のご招待。手ぶらでという訳にも行かず、取り敢えず 2 千円会費+カンパで 18 人の参加者を募り、お花とご祝儀を持参、落語やかっぱれ、曲芸を楽しむ。毎年開催、7 回になるという昇吉の会、若い女子高生やおばちゃんなどファンも結構いて、思いがけず（というのは失礼）盛況。若い会員の参加と、未婚の若い OB（昇吉さんも師匠同様独身）や OB 子弟をマッチング出来ないかというのが、三鷹クラブの現下の課題。そのためには先ず、若い寮友も参加出来る形での交流の場が必要と、閉会后、近くのおでん屋で 2 年後輩の勝部君、国立劇場の西沢君（94 年入寮）と盃を傾けながら、昇吉君にも一役買って貰い土曜日の午後か、夕方早めに三鷹クラブの新年会や納涼会を持とうと、「衆議一決」。

◎酒飲むな、酒飲むな！のご意見なれど！（結びに代えて）

10 月 24 日（土）夕方、寮で交換留学生歓迎会。三鷹クラブを代表、近くのカップ寿司の寿司桶を差入れる。一気飲みで仲間を死なせたサークルがあり、このところ寮のパーティは禁酒。要は上手にお酒を楽しめばいいことと、近くのセブンイレブンで、ポケットマネーで一升入りの梅酒と日本酒の紙パック 3 本を差入れるが、自分の差し入れたお酒も飲めず。そこまで干渉する大学、唯々諾々と従う学生。元全共闘には隔世の感（再見！）。